一一・九を迎える職場から

私たち三池炭鉱労働者は、今年もすぐそこに三池大爆発の日を迎えようとしています。今私たちはまず何を決意すべきか。次は、職場十四分会（三川）の宮原正満さん（仕繰）から寄せられた決意を語る手記です。恐るべき坑内職場の実態が報告されています。職場から、命と権利を守る闘いを強めましょう。

手記 ※※※※※

職場14分会（三川）
宮原正満

自分で守る以外には も早や命は守れない

目前に迫った屈辱の日

十一月九日。私たちにとって忘れる事の出来ない、屈辱の日が迫ってきました。

その日――、三井独占資本の生産第一主義・保安サボによって幾度の尊い生命が奪われ、大量のCO患者がつくり出されたのです。

このことについて会社は責任をとるどころか、CO患者や遺族の抹殺さえはかろうとしています。

私たちは絶対に許すことができません。

会社はそのとき「二度と過ちはくり返しません」と公言しましたが、その後、昭和四十二年九月二十八日に起きた坑内火災をはじめ延べ数万人にものぼる労働者が、あるいは負傷させられ、あるいは殺されています。

「自分の生命は、も早や自分で守る以外にない」として、今日まで闘ってきましたが、そのため会社も「保安と生産は車の両輪」といわなければならなくなっています。

そんな会社を見ると、表面上はなるほど坑内保安に積極的に取り組んでいるかのようですが、では職場の実態はどうでしょうか。私の知る限り、依然として生産第一主義がつらぬかれていると思います。

巧妙な負傷隠しのやり口

たとえば、負傷かくしの問題があります。

職場でますます労働強化されていく昨今、負傷者の激増が目立っています。

ところが担当の係員は、理由をつけて、なかなか〝公傷現認証〟を書こうとしません。だから負傷した者は仕方なく、しぶしぶと保安部あずけということになるのです。最近になると、保安部あずけどころか自宅待機なるものまで出てきました。

ひどいのになると、〝私傷〟として病院にかからせている。当然なことに、公式上の災害や負傷統計上の数字は実数よりうんと少く表われてくるのです。

そんな会社のやり方にあまんじて従うのも、一面労働者が月々受ける賃金が余りにも低いのが原因で、保安部あずけや自宅待機はその弱身をついた、巧妙な労務管理の一つといえます。

自ら保安無視する係員

保安面にも問題があります。第一、保安を指導する立場にあるはずの係員が、自ら公然と保安規則・規程の違反行為をくり返しているのです。

たとえば、こんなことがあります。

A係員が、あるとき裸マイト（発破に使うダイナマイトのこと）を手に持ったままで、切羽へ歩いていました。こんな場合は、必ず㊋と書いた袋に入れて、持ち運びするようになっているもののはずです。

また、各ゲートの巻き立てには立函の限度函数、及びその位置がちゃんと掲示されているにもかかわらず、B係員は規則を無視し、五函も多く立函をしました。

各捲のコースには、それぞれに準じた規定函数が定められていますが、C係員は規定函数より二函多く付函操作を行った例もあります。

このように、坑内保安の全責任を負っているはずの係員自ら、堂々と規則・規程違反をくり返しています。

抗議しますと、何かと弁解するのですが、違反はあくまでも違反であります。

だからといって保安部や上司に抗議にいきますと、これまた数十年来きまって「事実調査の上厳重注意します」のくり返しです。

欠勤すれば深夜の出勤督励

また、いずこの職場も同じで、人員不足による労働強化が行われています。

公休出勤、残業が強制的に行われています。

欠勤者には、深夜にもかかわらず電話で、明日は出勤するようにと要請したりしています。

さらに繰込時には、二～三日分だと思われる作業量が、上からの指示として背負わされています。職制は、「これをやり遂げてくれたらもうけもん」くらいにしか思っていないことでしょうが……。

欠勤者が出ると、たとえば二人作業が一人作業となる。ところが作業内容によっては、どうしてもその日のうちに終了しなければならない場合も出てくるもので、そんな時には、明らかに二人分の作業を、そのため休憩時間さえ返上して一人でやるのです。

もちろん残業になる。だから、賃金は二人分もらえるかといえば、そんなことはなく、普段より少し毛の生えたくらいでしかない。

以上のような、問題が山積している苛酷な現場環境・作業実態では、負傷者が多発するのが当然ではないでしょうか。

固めよう命守る闘いの決意

今日の三池炭鉱の坑内の実態を見るにつけても思うことは、私たちはこれまでも生命と権利を守る闘いを進めてきているとはいえ、まだまだきわめて不十分だということです。

このとき今年も、十一月九日を迎えるに当たりまして、生命と権利を守る闘いがいかに大切か、もう一度見直し、改めて全組合員が一丸となって、職場からの闘いを取り組む決意を固めるべきではないでしょうか。

その日行われる抗議集会には、全員参加を実現したいものです。

遅すぎる〝保安対策〟
四山鉱で熱中症が続発

四山鉱で夏から秋にかけ熱中症が続発。組合が抗議するとあわてて対策を実施するなど、改めて保安対策が遅すぎることが怒りを呼んでいる。

四山鉱（松藤吉治鉱長）で、おどろいたことに今年もまた熱中症患者が続発してきた。

九月十二日など、同鉱坑内の六百メートル坑道（深さ水面下六百メートル）の東二十卸で、一斉に九人も熱中症にかかってぶっ倒れたほどの事故を招いているのを、組合にひた隠しにしていた。現場からの伝言でわかったが、その後も熱中症はひき続き、三十日間に十一人という熱中症患者を出している。

それも仮入院さえしているほどの症状を、会社は職業病とみとめず、ビタミン欠乏症として処理したりしている。例によって「本人の不注意」というわけだろう。

組合が抗議すると鉱側は①高温のところでは作業員の交替制を実施する。②クーラーを増設する。③係員を常駐させて状況把握に努力する――など約束。またその後の点検で、改善対策が実施されていることがわかった。

組合が鉱に抗議した際、ほかにも多数改善方申し入れたが、働く者の命と健康を会社に大切に扱わせるためには、さらに職場の団結が強くのぞまれている。

遅すぎる保安対策は三文の価値もない。

×

十月十七日に発行された新聞〝みいけ〟号外は右の事実を伝えたあと「高温箇所・危険箇所の点検調査を実施し、職場で命を守る闘いを強めよう」と訴えている。

ありがたいカンパ
座りこみのとき感激

十九分会（三川）の椛島敬三さんから、先日のCO遺族要求を貫くための座りこみのときのことについて、手記が寄せられました。次に紹介します。

現在三川鉱正門前でCO遺族協定改訂闘争のスワリ込みが行われていますが、十月十六日の夜の九時二十六分頃、六十歳位いの男の人が、スワリ込みをしている人達にはげましのげきれいと、「なになっどん食べて下さい」と二千円のお金を差し出し、「大変お疲れさんです。私もCO患者です。皆さん達の苦労がわかります。今後共一生懸命頑張って下さい」と、ありがたいカンパを戴きました。

名前を聞きましたが、「名前は明かされない」といって、その人は立ち去りました。

私達の闘いに共感をもち、ご支援戴きまして、ありがとうございました。

右、ご報告致しますと共に、こうした善意のはげましの言葉、ならびにカンパを無にしないよう、最後まで頑張って行きたいと思っています。

×

なお右の座り込みのとき、灰原茂雄さん（元三池労組書記長）、佐藤さん（千葉。千二百名の人）大牟田・荒尾両地評などからもカンパをいただきました。心から感謝いたします。

よい勉強になりました三池

東京　藤平聖子

その節は大変お世話になりました。私にとって、三池に行った事は大変勉強になりました。ありがとうございました。

その時帰りにCOようかんを百本買ってかえり、地域で売りました。その利益分三千四百八十円、同封しておきます。CO闘争の役に立てば、と思っております。お手数ですが係の方に渡してください。よろしくお願いします。

×

藤平さんは「東京都日野市日野五七三〇」にお住まいで、婦人まなぶに参加なさったときお泊りいただいた、四山の酒本忠義さん（大牟田市四山町五八―八）あてにお寄せいただいたものです。心から感謝申し上げます。

新聞〝みいけ〟は友人です

栃木　椎葉貴子

いつも機関紙〝みいけ〟を送っていただきまして、またこのたびはCO患者守る会会費切れのご連絡をいただきまして、どうもありがとうございます。

一日の労働が終り、暗くなってから子供を連れて家に帰りつき、〝みいけ〟が郵便箱に届いている時は、ちょうど友人がたずねてきてくれているようで、ほんとうにうれしく思います。

これからもどうぞよろしくお願いします。

皆様も、体を大切に頑張って下さい。

会費切れの分と、なお向こう一カ年分の会費を送りますので、よろしくお願いします。

×

椎葉さんのお住まいは「栃木県下都賀郡大平町下皆川二〇〇二の五」です。ご厚情感謝に耐えません。お子さまを、くれぐれもお大事に。

なお、このようなお便りを、ほかにもたくさんいただいております。お礼申し上げておきます。

火花

▼…組合員・主婦会員の皆さん、きっと全国の仲間と思い思いに、手紙などで交流を続けていられることでしょう。

仲間から寄せられてくる便りから、私たちはどんなに強くはげまされたり、教えられたりすることでしょう。そんな仲間たちの便りをこの火花欄に紹介して、みんなのよろこびにしようではありませんか。

――編集部